

花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツ博士のかくかくド探偵立ててくさ

国立市立国立第七小学校

平成29年9月25日 NO.49 (449)



ウキクサ

オー君 「あれあれ?なんだ。葉っぱだぞ。」

花ちゃん 「ねえねえ、オー君!よく見て。葉っぱがどうなっているかわかる?」

オー君 「水にうかんでいるんだ。こりゃ、おどろいたね。」

花ちゃん 「これはね、水田などによく見られる植物なの。葉っぱがういているから、
ウキクサというのよ。」

オー君 「ちょっとまって、葉っぱがあるのはわかったけど、それだけなの。」

花ちゃん 「葉っぱのうらには、根っこがついているわよ。」

オー君 「ちょっとまって、葉っぱに根っこがついているって、へんじゃない。ふつう
植物は茎があって、茎から根や葉っぱがでるんじゃない。」

花ちゃん 「そういえば、ウキクサって、ちょっとへんだわ。」

モンタ博士 「二人ともいいところに気がついたね。ウキクサはね、葉っぱのように見える
ものは、本当は茎なんだよ。」

オー君 「え！それって、どういうことですか。」

モンタ博士「ウキクサは、体からだのつくりをなるべく簡単かんたんにしてしまったのさ。むずかしい言葉ことばで『葉状体ようじょうたい』というのさ。」

オー君 「ふーん。そうなんだ。ところで、ウキクサって、どうして水みずのうくのかな。」

花ちゃん 「水みずにうくから、ウキクサでしょ。でも、どうしてなのかな。ふつうの葉はっぱとはどちらがうのかな。」

モンタ博士「どうしてなのかな？と考かんがえることが大切たいせつだね。オー君くんと花ちゃんはなはどうしてだと思おもう。」

オー君 「水みずにうくというのは、魚さかなみたいなうきぶくろがあるのかな。」

花ちゃん 「うきやすいように、何なにかしかけがあるんじゃないかしら。」

モンタ博士「さすが、二人ともいい所ところに気がついたね。ウキクサの葉は、つまり葉状体ようじょうたいの中なかには、うきぶくろのように空くう気をためる細こまかい部へ屋や、むずかしい言葉ことばで、気室きしつというものがあるんだ。」

オー君 「ぼくの思おもったとおり、やっぱりうきぶくろがあるんだ。」

モンタ博士「それから、ウキクサの葉はの表ひょう面めんには、とても細こまかい毛けがたくさん生はえていてね、それで水みずをはじくんだよ。さらに、裏側うらがわは水みずにすいつきやすいようなつくりになっているんだ。」

花ちゃん 「私わたしの思おもったとおり、やっぱりしかけがあるんですね。」

モンタ博士「そのとおりだね。さらに、根ねっこにも秘ひ密みつがあるんだ。」

花ちゃん 「どんなつくりをしているんですか。」

モンタ博士「ウキクサは小ちいさい体からだなのに、とても根ねが長ながく、船ふねの錨いかりのような役割やくわりをしてるんだ。さらに、根ねの先さきには、『根帽ねぼう』とよばれる少すこしふくらんだ『おもり』までついているんだよ。」

オー君 「へえー。小ちいさなウキクサにも、いろいろなおどろきがいっぱいなんだね。」

ウキクサは害草？ ※ ウキクサのふえるようすを観察くわんさつしたい人に、ウキクサあげます。校長室けいちょうしつまでどうぞ！

こんな小さなウキクサですが、ものすごい繁殖力はんしりきで水田みづりを覆おほい尽くしてしまうことがあります。夏なつは特に増殖ぞうしのスピードがアップされ、ある研究者けんきゅうしゃの計算けいさんによると100日間で4000000倍ばいにも増えるそうです。田んぼ一面いちめんを埋め尽くしたウキクサは、太陽光たいやうこうを遮断しやくだんしてしまい、米作りこめづくりに大切な水みずの温度おんどを下くだげてしまうということがあります。また、さらに植物プランクトンの光合成こうごうせいを抑おさえてしまい、水中みづの中の酸素量さんそりょうを激減げきげんさせ、稲作りいねづくりに大きな被害ひがいを与えることがあるそうです。